平和への関心 入り口を皆に

ひとひと ワイド

「EXPRESS HIROSHIMA」運営 梶原 百恵さん(20)

広島

真面目だ、考えすぎだ、とよく言われる。でも、それの何が悪いのだろうと思う。

叡啓大学（広島市）の2年生。福山市で生まれ育った。中学1年の時に、若者が各国の大使役となって参加する模擬国連で、核軍縮について討論。「平和」への関心が芽生えた。地元の空襲被害などを学ぶ団体「ふくやまピース・ラボ」に加わり、高校では核兵器廃絶を求めて署名活動などをする高校生平和大使に。大学では「EXPRESS HIROSHIMA」という団体を昨年立ち上げ、議論や映画上映などを通じて平和を考えるワークショップを開いている。

平和に関わり続けて7年。日々もやもやしているが、何に悩んでいるのか、自分でもよくわからない。だから、自分の軸がぶれなくなるまでは基本的に一人で団体を運営し、活動しようと決めている。

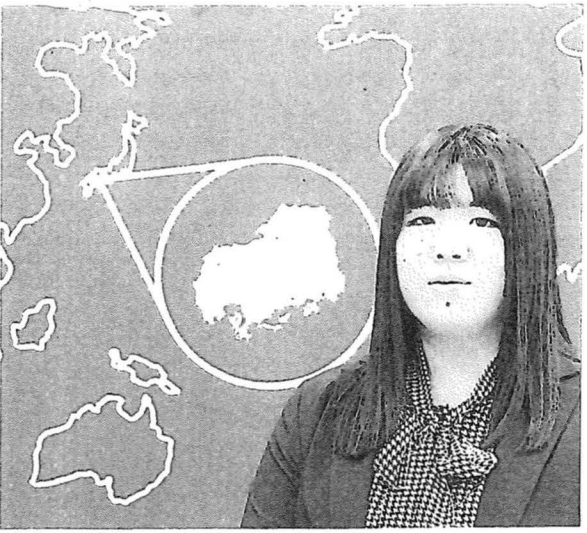
「原爆投下でこんなに悲惨なことがあった。だから核兵器はよくない」と、子どものころから繰り返し聞かされてきた。でも……と立ち止まり考える。「それだけでは8月6日しか見ていないことにならないか。繰り返さないために学ぶべきは、原爆投下までのプロセスなのでは」

平和に関心のない学生もいる。彼らと話をするうちに、被爆を入り口に平和を訴えるだけでは、関心のない人には届かない、との思いが強くなった。「それでも、平和はまちづくりや環境問題、何にでも通じるテーマのはず」

平和を少しでも自分事としてとらえてもらおうと、ワークショップでは作詞作曲をしたり、ゲームをしたり。その過程で意見を交わしながら、核や平和を考える。

参加した小学生がその後、平和に関心を持って自ら調べるようになった、と聞いた。うれしいけれど、まだまだとも思う。「小さくとも一人ひとりが動くきっかけになれば」。悩む20歳の模索は続く。

（興野優平）



「EXPRESS HIROSHIMA」はワークショップ開催のほか、G7広島サミットや核兵器禁止条約締約国会議などに合わせてインスタグラム（@express_hiroshima）などで思いを発信している。ホームページはhttps://expresshiroshima7.wordpress.com/。

「EXPRESS HIROSHIMA」のワークショップで、広島市の平和記念公園を訪れる参加者＝昨年2月、梶原さん提供